

# スピーカー B&W 音質比較 805SD Maserati Edition

## B&W 805SD Maserati Edition

希望小売価格

¥1,500,000 (ペア・専用スタンド付き)

B&W がフェラーリ製エンジンを積むイタリアの高級車「Maserati」ブランドの「クアトロポルテ」と「ギブリ」の純正オーディオに採用されました。この 2 車は日本での販売価格が 1000 万円を超える超高級車です。B&W は「Maserati/マセラティー」社へのカーオーディオ採用を記念して、マセラティー社のトレードマークである、「トライデント（三叉の鉤）」を刻印したスタンドが付属する、世界限定 500 セットの記念モデル 805SD Maserati Edition を発売しました。

形式：2Way・バスレフ型●ユニット：高域：25mm ダイヤモンド・ドーム 低域：165mm ウォーブン・ケブラー・コーン●クロスオーバー：4kHz●最大出力音圧：88 dB●インピーダンス：8Ω (最小 4.7Ω)●周波数特性：42-33kHz(-6dB)●本体サイズ (1 本・スタンド含まず)：W238×H418×D351(mm) / 12.0kg

### 概要

805SD Maserati Edition は、2012 年に発売された「805 Diamond Edition」と同じ、純度の高い人工ダイヤモンドのトゥイーターを採用しています。ウーファーやエンクロージャー、ネットワークなどもほぼ Diamond Edition に準じますが、Maserati Edition に合わせて細やかにリチューニングが施されたということです。



上：D&M から届けられた、805SD Maserati Edition の試聴機

右：805SD Maserati Edition の専用スタンド



下：付属のジャンパー線

右：805SD Maserati Edition 端子



付属するジャンパー線は、「スぺードプラグ・バナナプラグ」と両端にそれぞれ異なるプラグ形状が採用されていますが、このようにすることでスピーカーケーブル端子が「スぺードプラグ」でも「バナナプラグ」でも接続が容易になります。両端の端子形状が異なると見かけがアンバランスになるためか、市販のジャンパー線ではほとんど見かけない端子処理（以前 AIRBOW のジャンパープラグに採用）ですが、外観やデザインにこだわる B&W が「あえて」そういう気配りをしてきたことはちょっとした驚きでした。



上：付属アクセサリー一覧

右：付属アクセサリ詳細



この使い勝手の良いジャンパー線だけでなく、805SD Maserati Edition には金属スパイクと、床に傷を付けないソフトスパイクの 2 種類のスパイクが付属するなど、ユーザーフレンドリーな姿勢が強く感じられます。



上：スタンド底部の刻印

下：スピーカーターミナルの下のシリアルナンバープレート



本体とスタンドの側面には Maserati 車の内装に使われるものと同じの優美なサトウカエデの天然木化粧版とブラックレザーが使われていますが、これはマセラティー社と B&W 社のパートナーシップを表しています。セットのスピーカースタンドにも本体と同じく Maserati 車と同じ磨き上げられた木製ベニヤ仕上げが使われ、スタンド底部にはマセラティーのトライデント（三叉の鉤）がシルバー光沢仕上げでエンボス加工されています。スタンドに刻まれたこのトライデントは、ポロニアのマッジョレ広場にある噴水のネプチューン像に基づいて Mario Maserati がデザインしたそのもので、1926 年以降のマセラティー社のアイデンティティとして使われてきたものです。

スピーカーターミナルの下には、限定モデルの証として製造番号が刻印されたプレートが取り付けられます。



## テストで使用した機材



Marantz SA8005



AIRBOW PM8005/Studio



Audioquest USB Diamond/iPod

## 音質テストの概要

マニアならこのクラスのスピーカーには、高価なアンプやCDプレーヤーを組み合わせると思いますが、今回は価格的にはまったく釣り合わないのを承知でAIRBOWのベースとして試聴を続けていた Marantz SA8005 (ノーマル) と AIRBOW PM8005 Studio を選びました。ここから先、今回試聴に使ったCDプレーヤーとアンプの詳しい説明をします。スピーカーの音質や性能を早く知りたいとお考えなら、この文章は飛ばして先にお進みください。

今回試聴に使う CD/SACD プレーヤー Marantz SA8005 は、新品からここ 2ヶ月くらいほぼ毎日聞いています。AIRBOW ブランドの CD プレーヤーとアンプをセットで開発するときには、まずアンプのカスタマイズから始めることにしています。今回の AIRBOW PM8005 Studio の開発では、ノーマルの SA8005 を使いましたがこれは異例です。なぜなら、市販のプレーヤーは吊し (なにもしない) の状態ではほとんどの場合、私が音決めに欲する「音の精度」に達していないからです。

オーディオ市場にこれほど多くの製品が存在するのは、中小メーカーでも大メーカーに引けを取らない音質の機器を作れるからです。他の家電では考えられないことですが、それはオーディオ機器の設計に大メーカーが所持する「コンピューター」や「測定器」が役に立たないからです。最近の工業製品は、開発コストを削減するため「コンピューターによるシミュレーション」が多用されます。シミュレーションによる有限要素法で「試作」の回数を抑えられれば、開発コストは大幅に削減可能です。

しかし、オーディオ機器の設計は「コンピューター」で行っても、その「音決め」は人間しかできません。測定できない「音質」は、「テスター (音決め担当)」の耳が頼りなのです。つまり、どれほど大きな電機メーカーであったとしても音と音楽をきちんと判断できる見識を持つ「テスター」がいなければ、良いオーディオ機器は作れず、逆にガレージメーカーであったとし

ても、「耳の良いテスター」が存在するなら、良い音のオーディオ機器が作れます。昔からそういう「耳の良い人」が生み出すオーディオ機器には、熱烈なファンが存在します。そしてメーカーには、「そのテスターの名前」が冠されるのです。

Marantz も創業時はそういうメーカーでした。しかし、歴史を重ねる毎にオーナーが変わり、現在は創始者とはまったくゆかりのない会社です。しかし、オーディオメーカーの責任を持って「音は耳で決める」と言う伝統を今もしっかり守っています。Marantz の設計責任者、澤田氏が入念に音を聞きながら作り上げた、SA8005 はその中でも特に良くできた製品に思います。柔らかさと優しさ、明るさと懐の深さを持つ SA8005 は、どんなソフトを聞いても破綻することがなく、バランス良いその音は現行 Marantz の CD プレーヤーでベストだと感じるほどです。

今回その相方を選んだのは、PM8005 のカスタムモデル AIRBOW PM8005 Studio です。このモデルは PM8005 を一度バラして、調律師がコンサートグランドピアノを調律するのと同じように、パーツを取り替えながら音を整えたモデルです。もちろん Marantz 澤田氏も同様の作業を行っているのですが、使用できるパーツに「制限がない」とこと、TAD Reference1 Mark2 を始めとする、総額 2500 万円を超える各社の最高級スピーカーでヒヤリングテストを行えることが AIRBOW の利点になっています。ショップがチューニングするオーディオ機器の多くが、開発環境やテスターに依存する独自の癖を持つのに対し、AIRBOW の音作りが広く受け入れられているのは、この理想的な開発環境に負うところも大きいと思います。

AIRBOW 製品の音決め作業は、パーツを一つずつ変えながら行ってゆくため何よりも根気と集中力が求められます。ノーマルでも相当良くできている SA8005 と PM8005 をより良くするための作業は、従来よりも時間がかかりました。2ヶ月以上の時間を掛け完璧な「調律」を行った PM8005 Studio はその甲斐あって素晴らしい

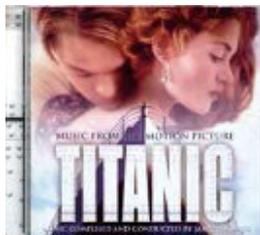
音質のプリメインアンプに仕上がったのです。オーディオ機器のバランスが「極限」まで高まると、組み合わせる製品との相性で音 (評価) が大きく変わらなくなります。完璧にチューニングされた機器は、どんなに癖の強い機器と組み合わせても、一聴してすぐに「音が良い」とわかるのです。そのレベルに達するまでチューニングの手を緩めず完成した PM8005 Studio はどんなスピーカーと組み合わせても、確実にそのスピーカーの性能を引き出す力を持っています。実売 10 万円の CD プレーヤーと 20 万円のプリメインアンプの組み合わせは、150 万円の 805SD Maserati Edition に釣り合わないと感じられるかも知れませんが、その音質は十分です。

しかし、Marantz SA8005 と AIRBOW PM8005 Studio を 805SD Maserati Edition に繋ぎ出してきた音は、高域が硬く、中低域が痩せています。悪くはないのですがエネルギーバランスが偏り、まるで初期の B&W の様に理が勝ちすぎて情が感じられません。この時 Marantz が試聴機に付けて来たジャンパー線が付属品ではない事に気がつき、もしかと思って 805SD Maserati Edition 付属品のジャンパー線に交換すると、嘘のようにバランスが整い音質が一気に良くなりました。

ジャンパー線でここまで印象が変わることも珍しいのですが、805SD Maserati Edition はまず「付属のジャンパー線」をお使いになることをお勧めします。

今回、805SD Maserati Edition は、付属の専用スタンドと組み合わせました。スタンドとスピーカー本体は、なにも挟まずに寄せただけで、ボルト止めもしていません。スタンドはスパイクなどを付けずにカーペットの上に置いた「ウェルフロートボード」に乗せました。ソースは、iPod Touch に収録した「WAV」ファイルの音源を USB デジタルで SA8005 に入力しています。接続に使った USB ケーブルは、配線に純銀を使った audioquest USB Diamond です。

## 音質テスト



### TITANIC Sound Track : "Never An Absolution"

イントロのリードを使った楽器の音は、「ショーム」だろうと思っていました。しかし、音が長く続くことやこの映画がイギリスのものであるということ

を考えるなら、その楽器は「バグパイプ」と気づくべきでした。それはともかく、805SD Maserati Edition が鳴らす澄み切った鋭い笛の音は、一切のストレスなしに部屋中に立体的に

大きく広がります。

通常の B&W Diamond Series では、このような鋭い高音に硬さや僅かな違和感を感じるがありますが、805SD Maserati Edition には一切の違和感がありません。澄み切った音ですが決して冷たくありません。さらに標準モデルの B&W Diamond Series よりも音が有機的で色彩感に富むのは、使われている木材の材質の影響なのでしょうか? 温度感も標準モデルよりも、ほんの少し暖かく感じます。

搭載する Diamond 振動板ツイーターから放たれる高音は、驚くほどのきめ細かさと、高い明瞭度感、そして非常に高い透明感を持っています。生演奏よりも美しい音で、澄み切った笛の音が部屋中に広がります。

定位感はブックシェルフ型スピーカーらしく、とても優れています。スピーカーを適当な場所に設置しているにもかかわらず、部屋中がタイタニックの幻想的な響きで満たされます。

低音はサイズから想像するよりも遙かに深く低く、まるでサブウーファーを使っているのかと錯覚するほどです。しかし、その音の繋がりや精密さや違和感の少なさ (自然さ) は、帯域分割が最小の 2Way のものです。高音 / 中音 / 低音のシームレスで自然な繋がりには、舌を巻かれます。テストの概要でご紹介した非常に簡単な CD プレーヤーとアンプ、接続ケーブルしか使っていないにもかかわらず、ハイエンド製品に匹敵する細やかさ、レンジの広さ、圧倒的な立体感 (音の広がり)、

音楽的な情緒の深さと多彩な表現が繰り出されることに驚きました。外観だけではなくその音質にも、通常モデルとはひと味違う「オーラ」が感じられます。このスピーカー、侮れません。



**森山直太朗 / 傑作選：“さくら（独唱）”**  
イントロのピアノは、ハンマーの動きが感じ取れるほど細やかではっきり聞こえます。打鍵の強弱や音色の変化が大きく出て、良質のピアノを丁寧に弾いている様子が伝わります。

下手なコンポだと細く神経質でうるさくなりやすい直太朗の声ですが、805SD Maserati Edition では暖かく感情がこもった音で鳴り、彼のメッセージが真っ直ぐリスナーに向かって来ます。ボーカルとピアニスト。それぞれがとても丁寧に音を出している様子が伝わります。B&W の多くがともすれば「電気的な増幅器の介在」を感じさせるのに対し、805SD Maserati Edition はそういうよけいな存在感（オーディオ機器の介在感）が皆無で、言葉通り「目の前で直太朗が歌っている」ように聞こえます。この自然さ、この暖かさ、この表現力は、802 Diamond すら上回り、同じ 2Way の超高級スピーカー Magico Q-1 にさえ迫りそうです。805SD Maserati Edition は、良い意味で癖のないモニター的な音です。



**Mariah/Is：“Do You Know Where You're Going To (Theme From Mahogany)”**  
タイタニックでも驚いたのですが、この曲でもイントロ伴奏の低音がしっかりと相当低いところまで聞こえます。やかすくれたマイヤの声と透き通るような高音が重なって収録されている部分では、2人のボーカリストが歌っているのではと思うほど「高低の声の質感の違い」がきちんと再現されることに驚かされました。

曲が進むと、伴奏に使われる楽器とオーバードビングで作られるハーモニーの重なりがまるで「ミルフィーユ」のように細やかで、スイートに聞こえることに再び驚かされます。こんな風にこの曲が鳴ったことは過去になく、たった 120,000 円のプレーヤーと売価 208,000 円のアンプで 805SD Maserati Edition をならしているとは思えない、驚愕のサウンドでマホガニーのテーマが鳴りました。Diamond すら上回り、同じ 2Way の超高級スピーカー Magico Q-1 にさえ迫りそうです。805SD Maserati Edition は、良い意味で癖のないモニター的な音です。



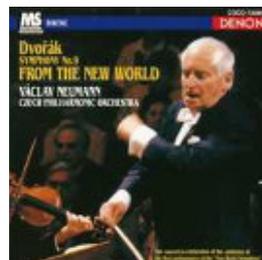
**Billy Holiday/Nice Work If You Can Get It**  
iPod タッチを「WAV」音源のランダムにセットしているため、レポートを書いていると意図しない次の曲が鳴り始めます。通常、B&W のような現代的なスピーカーと古い録音はマッチしません。鳴り始めたこのディスクの音源は 1950 年代のモノラルで非常に古いもので、B&W のような高性能 HiFi スピーカーが苦手とするものです。しかし、805SD Maserati Edition は、録音の古さをまったく感じさせず、あたかも最新録音のようにワイドレンジで細かい音でこのディスクを鳴らすのみならず、あたかもビリー・ホリ

デイが現代に蘇ったかのように新鮮な音でこのディスクを鳴らします！  
ボーカルは暖かく表現力に富み、楽器の音も鮮やかです。下手な 1000 万円オーバーの音楽が鳴らない高級システムよりも遙かにまともで、遙かに音楽的で、それでいて情報量の多い HiFi サウンドでこの曲が鳴りました。先ほども Magico S1 を引き合いに出しましたが、B&W 805SD は Q-1 と同じくらい細かい音で、それを超えるほどの情緒を持ち、血の通う暖かいサウンドでこの曲を見事に蘇らせました。150 万円を支払っても、幸せになれるスピーカーです。



**Hilary Hearn/Bach Violin Solo**  
バイオリンを奏でるヒラリーハーンの身体の動きまで見えそうなくらい、細かいクッキリした音が出ます。バイオリンから直接出る

音、反射して戻る音、1弦〜4弦の音色の違い、そういったものが実に明確に再現されます。マライヤキャリアーのボーカルや森山直太朗のボーカルが細く神経質にならずに聞こえたのと同じように、ヒラリーハーンの奏でるバイオリンの音も有機的で暖かく滑らかです。ぎすぎすしたノイズな音とは無縁ですが、バイオリンらしい引っかかり感はずっと出ます。何より素晴らしいのは「楽器の色彩感」が濃いことです。この点でいつも聞いている標準品の B&W Diamond Series と限定モデルの 805SD Maserati Edition はかなりの差が感じられます。一体 B&W はこのスピーカーにどんな魔法をかけたのか？分かりませんが、本当に暖かく、真空管アンプで音楽を聞いているような音が出ました。



**ノイマン / チェコフィル 新世界：“第一楽章”**  
さすがにこのサイズのブックシェルフですから、交響曲の低い部分まで完全に低音は伸びません。しかし、コントラバスやティンパニーのパートは音量を

小さく感じることなく、きちんと主張します。金管楽器の音が鮮やかで、素早く他の楽器の間を抜けてきます。木管楽器の音は柔らかく、同じ音程を奏でていても金管楽器と木管楽器の音色の違いがきちんと再現されます。弦楽器も同様で、同じ音程が奏でられてもチェロとコントラバスの音が分離して聞き取れます。楽器の数が多き交響曲を聴くために理想的な「楽器の音色の分解能力」と「繋がり」の自然さを 805SD Maserati Edition は持っています。再生周波数帯域を除いて、今まで聞いた B&W ではベストかも知れません。本当にどういう魔法をかけたのか？分からないですが、805SD Maserati Edition はその音質においても、150 万円という高額な価格に相応しい能力が与えられています。「Maserati」の名を冠するのに相応しい「高級感」と「情熱」を兼ね備えます。これは、驚くべきスピーカーです。

試聴後感想

初期の (N802 時代) Tweeter は高域が少し重く感じる傾向がありました。またそれが原因で音色が暗く、鉛色に感じることがありました。試聴室導入した初期の N802 は、毎日聞いていると気分が重くなっ

てきたので 2ヶ月で他のスピーカーに変えたほどです。2代目の 802D でそれはかなり改善しましたが、まだ私の耳には「ユニットの繋がり」の不自然さ / 再現される楽器の音色のアンバランス」が感じられました。3代目 (現行) の Diamond Series になって、スピーカーとツイーターの繋がりとの違和感はほぼ完全に解消しましたが、TAD や PMC、あるいは Magico と聞き比べるとまだ完全ではないと分かります。805 Diamond Edition を聞いた時も、まだ若干の違和感を覚えたのですが、805SD Maserati Edition ではその違和感が完全に消えています。その音を聞くまで B&W 805SD Maserati Edition は、富裕層向けの「ただの高価なスピーカー (記念品)」だと思っていました。しかし、音を聞いてみると B&W が一体どんな魔法をかけたのかはわからないのですが、標準品の Diamond Series とはまったく別物の素晴らしいサウンドに生まれ変わっていました。こんなに暖かく、ヒューマンな音を B&W スピーカーで聴けたのは初めてです。その証拠に B&W が苦手とするモノラル時代の古いジャズ (ビリー・ホリデイ) ですら 805SD Maserati Edition は見事に鳴りました。目の前でビリー・ホリデイが歌っているような暖かい血の通った情緒的な音を聞いていると、Maserati の故郷であるイタリアメイドの SonusFaber、それも最新モデルではなくフランコセプリンの魂が宿っていた頃の SonusFaber の音が脳裏に浮かびました。Marantz がそうであるように SonusFaber もオーナーが変わり、音作りが変わりました。私が好きなのは、初代の製品、Minima や Amator、あるいは Extrema です。これらのスピーカーの音は驚くほどスイートで情緒的でした。その後にマイルストーン的な存在として発売された「Guarneri」は、打って変わった硬質な音で戸惑いましたが、しっかりと鳴らして込むことでその音がどんどんと芳醇さを増したのです。805SD Maserati Edition は、SonusFaber Guarneri のような存在感を持っています。あえてその音を比較するならば、テキスタイルドームツイーターを使う SonusFaber Guarneri の方が、805SD Maserati Edition より高音は柔らかく滑らかです。しかし、Diamond を振動板に採用する最新ハードドーム型ツイーターを搭載する、805SD Maserati Edition は SonusFaber が苦手とする切れ味の良い POPS や ROCK も難なくこなします。そしてこれまで B&W が持ち得なかった「情熱」が 805SD Maserati Edition には備わっています。150 万円という価格を 805 Series の限定モデルと考えると、びっくりするくらい高いのですが、SonusFaber 最新の Guarneri がモデルチェンジを重ねるまでに 200 万円を超えるほど大きく値上がりしていることを考えれば、また 805SD Maserati Edition と同じ方向性を持つ Magico Q-1 が 300 万円を超えることを考えれば、805SD Maserati Edition の 150 万円は、決して高いとは思えないのです。この試聴の後、逸品館に 805SD Maserati Edition の試聴機を導入しました。今回の試聴と試聴機の設置から、感じた私なりの 805SD Maserati Edition を鳴らす「ポイント」をまとめとして書きたいと思います。まず、見かけがチャチな付属ジャンパー線を使ってください。高性能で繊細なスピーカーなので、スピーカーのバランスを損ねやすいワイヤー接続には注意が必要です。シングルワイヤー接続の場合、プラスを高域・マイナスを低域に入力すると音のバランスが整います。ツイーターの保護グリルは、マグネット装着なので簡単に取り外せます。付けた状態だと中低音のバランスに優れ、音も大きく広がります。外すと直接音のエネルギーが強くなり、楽器との距離が近く感じられるようになります。POPS や Jazz、Rock など高音に切れ味が欲しい場合には、グリルを外すと良いでしょう。ダイヤモンド振動板は割れやすく非常に高価なので、音の違いがあまり気にならない場合には安全のためにも付けたままお使いになることをお勧めします。CD プレーヤーやアンプにお金を掛けなくても 805SD Maserati Edition は良い音を聞かせてくれます。個人的には仰々しいプレーヤーやアンプを組み合わせるのではなく、Unison Research Sinfonia のようなお洒落な真空管プリメインアンプなどと組み合わせ「さりげない高級感」を楽しむのがお洒落なように思います。イタリアの高級車 Maserati がそうあるように、805SD Maserati Edition は高級品のオーラ溢れる品格を持っています。音楽の分かる大人が使うべき、大人の感性で作られた素晴らしいスピーカーだと思えます。150 万円は、決して不当な価格ではありません。是非その音を、聞いてみてください。